

【教育目標】

強健な身体を育み、明るく、つつまじやかな品性をそなえ、家庭円満に国家、社会に貢献する女性を育成する。

【教育方針】

全人教育・文武両道

教育の根底となる哲学「どう生きていけば幸せになれるのか」の追求

- 1 学 習
 - ・学習に打ち込むことを通して生きる力を養い、知的で豊かな人間性を育む。
- 2 課 外 活 動
 - ・学校行事を通して絆を深め、人間関係の大切さを学ぶ。
 - ・部活動を通してくじけない心を育て、たくましい精神力を養う。
- 3 社 会 性
 - ・社会生活におけるルールや礼儀を体得し、人間としての品格を備える。
 - ・地球環境について正しい認識を持ち、環境保全活動を実践する。

【目指す生徒像】

学習指導、進路指導の充実により生徒の「学びの構え」と、生活指導、特別活動指導の充実より「生きる構え」を育み、心身ともに逞しく「生き抜く力」を身に付けた品格ある生徒を育成する。

【今年度の重点目標】

- 1 基本的な生活習慣、望ましい学習習慣を確立させて学力の向上を図り、規律と責任を尊び、心豊かで充実した学校生活を送ることができるように努める。
- 2 教育活動を通して強靱な体力や精神力、正しい判断力や豊かな情操を培い、心身ともに逞しく生き抜く力を育む。
- 3 教員の授業力を高め、生徒の学習意欲の向上に努める。
- 4 3年間を見据えたきめ細かい指導を行い、生徒の進路志望の実現を目指す。
- 5 生徒・教職員が安心して教育活動が実践できる安全で快適な教育環境の保全に努める。
- 6 生徒・教職員の激甚災害への防災意識を高め、不測の事態に安全に行動できる知識や能力を育成する。
- 7 いじめ防止基本方針に基づき的確な指導を行い、いじめに向かわせない学校風土を醸成する。

※達成度は4段階評価
 4:大変よくできた。
 3:まあまあできた。
 2:あまりできなかった。
 1:全くできなかった。

項目	重点目標	具体的方策	最終評価	達成度	次年度への課題及び行動目標
普通科	基礎学力の定着と応用力の養成	・英語、国語の継続的な小テストの実施 ・校内外の試験の活用による実力の把握と目標の設定	1、2年生は毎日の家庭学習を習慣化することができた。3年生は国公立大学や難関私立大学に出願する生徒や、一般入試で進路を決定する生徒が増加し、全体的に学力の向上が見られた。	3	進路決定を推薦入試ありきで考えさせず、一般入試で合格できるだけ学力を付けさせる。
	視野の拡大と可能性の追求	・大学見学バスツアーや大学展の活用	1、2年生のうちから各種進路行事に積極的に参加させ、具体的な進路目標を持たせる仕掛けをした結果、高い目標を掲げて日々の学習に励む生徒が増加した。	3	校内外の各種進路行事に積極的に参加させ、選択肢を増やし、高い目標を持たせて学習に取組ませる体制を作る。
情報会計科	積極的な資格取得	・夏季補習、検定直前補習、朝補習の充実	3年生に関しては全員が2級以上合格という結果を残した。生徒アンケートでは、ほとんどの生徒が、資格取得に取組む姿勢を培うことができた。と回答した。	3	さらなる上級資格の合格を目指し、補習の質・量ともに充実させる。
	即戦力となる人材の育成	・始業前着席、授業準備の徹底	生徒アンケートでほとんどの生徒が「できている」「おおむねできている」と回答しており、日々の反復学習指導、挨拶指導、マナー指導、面接指導等とおして、社会人としての基本的資質を身につけることができた。	3	きめの細かい反復指導、挨拶指導を徹底する。
家政科	基礎学力の定着	・学習コンクールに対する学科テストの実施	学科全体で小テストに取組んできた結果、第1回から5回までの学科平均点が昨年度を上回ったが、学科目標平均点60点を上回ったのが第1回と5回だけであったのが残念である。	3	学科平均点60点を達成できるように指導の徹底を図る。
	家庭科検定資格取得の強化	・検定補習の実施	家庭科検定4級合格率100%を目標にして取組んできたが、被服検定の合格率は59.1%、食物調理検定の合格率は63.8%であったのが残念であった。食物調理検定2級の合格率が70.8%であり、上級者の合格率が目立った。また、家庭科検定の受験者が増加した。	3	4級合格率を100%に近づけるための指導を実践していく。
	附属幼稚園との連携強化	・保育実習 ・スモック製作・贈呈	保育実習、スモック製作・贈呈、エプロンシアターを予定通り実施することができた。	4	幼稚園及び大学との連携を含め、今後の家政科のあり方を考えていきたい。
食物調理科	調理技術と知識の習得	・調理師としての自覚の涵養	学校生活の問題点を早期発見し対応できたので、落ち着いた学校生活を送らせることができた。そのため、衛生管理への意識も高まり、円滑で安全な調理実習を実践できた。	3	春季技術考査全員合格に向けて授業の拡充を図る。
	地域に根づく学科	・地域活性化事業への参加 ・地元企業との商品共同開発	「信長の台所 津島まちあそび・第8回一宮モーニング博覧会・第35回一宮総合食品フェア・138ひつじプロジェクト」に参画し、食文化という側面から、地元活性化の一端を担うことができた。また、地元企業との商品開発に成功し、商品化をすることができた。	4	地元企業と共同で開発したベジタブルあられのシリーズ化の拡充を図る。
総務課	図書館の利用促進	・蔵書管理システムの活用	OSのサポート終了に伴い、蔵書管理システムに不具合が発生した。そのため、パソコンとOSの購入を余儀なくされたが、迅速に対応することができず、年度末の統計等に活用することができなかった。	1	パソコンを購入し、蔵書管理システムが正常に稼働するよう設定する。
		・図書に関する積極的な広報活動	図書委員会による企画展『ムーン？』が好評であり、その期間多くの生徒が来館した。一人当たりの年間読書冊数も前年度を上回ることができた。	3	一人当たりの年間読書冊数を前年度以上に増やせるよう、広報活動に努める。
	防災に対する取組みの推進	・防災教育の推進	予定されていた避難訓練が雨天のため中止され、今年度は防災マニュアルの説明以外の防災教育を実施することができなかった。	2	昨年度、今年度と実施できなかった避難訓練を予備日も含め企画し、実施する。
		・防災マニュアルの整備	改善点の指摘もあったが、運用後1年も経過していないため、今年度の改訂は見送った。今後は、防災マニュアルを周知する機会を作る必要がある。	2	防災マニュアルを周知する機会を作る。
教務課	基礎学力の定着	・家庭学習習慣の確立	年間を通じて家庭学習習慣の確立を呼びかけたが、生徒及び保護者アンケートの結果からみても、家庭学習が全員に定着されているとは言い難い。生徒アンケートでは、全体の約30%が宿題や復習を含め家庭学習をしていないと回答し、保護者アンケートでは、7月約30%強・12月40%弱の保護者が定着していないという回答であった。	3	全員が家庭学習を行えるように、次年度も最重要課題として取組む。
		・授業規律の確立と授業力の向上	朝の反復学習や授業開始については昨年度に比べて改善されたが、昼の反復学習の取組み方がクラスによって温度差があった。また、年間を通じて授業観察や研究授業を実施することで、学習意欲を高める授業力向上に努めた。	3	授業規律を確立させ、さらに教員の授業力向上を促すことで、生徒の向学心を養い学力定着につなげる。

項目	重点目標	具体的方策	最終評価	達成度	次年度への課題及び行動目標
生徒課	品位ある生徒の育成	・正しい身だしなみの確立	正しい制服の着こなしをする生徒が大半を占めるようになった。これは、教員の日頃の声掛け指導が定着している結果である。	4	身だしなみ指導については、今後も見逃さない声掛け指導を継続し、保護者との連携を密にして取り組む。
		・交通マナーの遵守	交通事故は、登下校中の自転車と自動車の接触事故が19件であった。ルールを守っていても、自動車から追突してくる事故が2件あったので、ルール遵守を喚起した。	3	事故防止のために、ゆとりを持った登校と確認走行を呼びかけたい。
	生徒会活動の活性化	・委員会活動の活性化	学校行事や環境美化活動など、1・2学期は意欲的に活動することができたが、3学期は委員会によって活動にばらつきがあった。	3	毎月委員会を開催し、通年で活動できる企画を各委員会で作成し、実施できるようにしたい。
		・部活動の活性化	顧問の努力により、中間評価と同様に維持されていた。その成果として、全国大会出場を果たした部活動があったことは喜ばしいことである。	3	心身の健全な発達を目指し、3年間継続して部活動に取り組めるよう、家庭ときめ細かく連携を取り、高い成果を修められるようにする。
	保健管理の充実	・保健に関する意識の啓発	随時、心身の健康や、けがの情報発信を行ったが、昨年度よりも、インフルエンザの罹患者数の増加がみられたので、予防において一層の喚起を呼びかけるべきであった。	3	積極的な情報の提供および発信を実践し、けがや、疾病の予防に努めたい。
進路課	納得できる進路選択	・進路シラパスの活用	進路シラパスの活用を教員・生徒ともに呼びかけたが、年間行事予定との差異が理解されず、期待する利用状況には至らなかった。	2	進路シラパスのブラッシュアップを図る。また、学校全体で利用する機会を増やす。
		・多様な入試制度の活用	単なる早期決定を目的としたAO入試利用者は皆無であった。推薦入試以外にも、センター試験利用入試・一般入試等、熟慮の上の多様な入試制度を利用する生徒が増加した。	3	様々な入試制度を提示することで、受験プランを立てる際の参考にさせ、より良い進路実現へと導く。
		・就職試験対策の強化	就職内定率は100%であった。面接対策は、生徒の面接ノート作りへの取り組みがよく、各学科教員の協力も得て、一定の成果をあげることができた。筆記試験に向けては、学習コンクールへの取り組みが有効であることが浸透した。	4	面接が苦手な生徒の指導を充実させる。
広報課	情報発信の充実	・ホームページの年度更新 ・ホームページの更新率100%を継続	ホームページを一新して3年目となる今年度、概ねスムーズに年度更新をすることができた。保護者アンケート結果の多くは肯定的な評価であった。日々の更新とSNSとの連動で、前年度よりもアクセス数増につなげることができた。	4	あらゆる端末から閲覧しても支障がないよう、ホームページのフルリニューアルを実施し、さらなる情報発信の充実に努める。